

## Column

## 抑えておきたいホットな話題

## — 火災から復旧まで事後処理から学ぶ

## 火事の知らせ

2007年10月3日午後10時、北海道出張のあと、工場の近くで遅い食事をとっていた加山順一郎氏の携帯電話が鳴った。警備会社からだ。「こんな時間の電話はよくない知らせでは…」一緒に食事をしていた河野嗣寿氏の嫌な予感的中した。工場が燃えているというのだ。

晴天が続き、乾燥した空気のおかげで加山興業・豊川工場のRPF(固

形燃料)の原料はよく燃えた。機械の不調で工場内には800㎡～1000㎡といつもより多くの原料が保管されていたのだ。納期が迫るなか、遅くまで1人で作業を続けていた従業員が火災に気付いたときには、すでに手のほどこしようがなかった。電話を切るや、加山氏らは急遽現場に駆けつけ、従業員の安否を確認した。

「燃え盛る火を間の前にして、かえって肝が据わった」

河野氏は現場に着いたときのこ



第5回ESJマネージャー研修(5/23)で講演する加山興業・企画部長の河野嗣寿氏。